

KUGS高大接続プログラム：レポート課題ルーブリック《詳細版》（「高校での学び」・「大学での学び」共通）

	1	2	3	4	5
	不合格（一つでも該当した場合、要再提出）	合格	執筆の際の目標		
A.自己の立ち位置を知る能力	自分の置かれている状況を漠然と把握するに留まり、レポート課題を受動的にしか考えられていない。「高校での学び」レポートにおいては、テスト勉強など高校生であれば普通に取り組むことを課題（問題点）としている。「大学での学び」レポートにおいては、個別プログラムの内容に則した課題を考えられていない。レポートに課題がない	自分の置かれている状況を正しくとらえようと努力しており、自分が何をすべきかを自ら考えようとしているが、レポートで設定した課題（問題点）が身近なものに留まっている	自分の置かれている状況を正しくとらえ、自分が何をすべきかを自ら進んでつかみ取り、それをもとにレポートで課題（問題点）を設定できている	鋭い倫理感もしくは科学的知見にもとづいて自分の置かれている状況をとらえ、自分がそのなかで何をすべきかを自ら進んでつかみ取り、それをもとにレポートで課題（問題点）を設定できている	鋭い倫理感と科学的知見にもとづいて自分の置かれている状況をとらえ、自分がそのなかで何をすべきかを自ら進んでつかみ取り、それをもとにレポートで課題（問題点）を設定できている
B.自己を知り、自己を鍛える能力	自分の限界を知ろうとする努力や工夫が見られず、すでにできる／知っていることの範囲のなかで考え行動している。あるいは他人の助言の受け売りで行動している	自分の限界を知り、その限界を乗り越えようと努力と工夫を重ねている。ただし、簡単にできる／知ることができる範囲にとどまっている	自分の限界を知り、その限界を乗り越えようと努力と工夫を重ねている	自分の限界を知り、その限界を乗り越えようと、未知の状況に自分自身を置き、自己を高みへと引き上げようと努めている。「高校での学び」レポートにおいては、「活動に取り組む中で「どう成長できたか」」について、あらためて自分の強みや限界を把握するなど、丁寧な振り返りができており、今後の成長につなげる力がある	自分の限界を知り、その限界を乗り越えようと、未知の状況に自分自身を置き、自己を高みへと引き上げている
C.考え・価値観を表現する能力	課題（問題点）を書く努力の跡は見られるが、読み手が課題を推測できない／しにくい 指定事項※1のいずれかがない。または、指定事項はそろっているが、特定の項目が長い、あるいは短いなど、バランスが悪い 課題と解決策がまったく対応していない、時系列的に沿った整理に留まっているなど、論理的でない。読み手が納得できる理由がない。レポートとしての体裁が整っていない。日記、エッセイ、実験レポート、活動報告書である	曖昧な表現であるが、読み手は課題（問題点）を推測できる 指定事項※1がすべてそろっており、バランスがとれている。ただし、設定した課題（問題点）とは無関係な記述が交じっている 課題と解決策を対応させる努力の跡は見られるが、対応していないなど、論理的展開に難がある。読み手が納得できる理由を提示しようとしている。部分的に体裁に問題がある。解決策に論拠がなく、アイデアの提示に留まっている。複数の解決策を次々提示しており、一つ一つを掘り下げるような展開になっていない	ある程度、明瞭に課題が表現できており、読み手が誤解する恐れが少ない 指定事項※1がすべてそろっており、バランスがとれている。課題（問題点）にしたがって論理的に展開できている 読み手が納得できる理由を提示できている。読みやすい文章である。体裁が整っている	読み手がすぐに課題を把握できる。読み手が誤解なく課題を把握できる 指定事項※1がすべてそろっており、バランスがとれている。課題（問題点）にしたがって論理的に展開できている 読み手が納得できる理由を提示できている。読みやすい文章である。体裁が十分に整っている。解決策は、対象を限定したうえで、論拠を示し、具体的に考えられており、実現可能性を十分に検討できている	複雑あるいは抽象的な事象・現象を解きほぐし、はじめでの読み手にも伝わる論理的構成や言語表現をしている 指定事項※1がすべてそろっており、バランスがとれている。課題（問題点）にしたがって論理的に展開できている。 自分の考えの背後にある感情やもの見方までも含めて、読み手に的確に伝えることができる 解決策は、対象を限定したうえで、読み手が納得できる理由を示し、具体的に考えられている。実現可能性が非常に高い
D.世界とつながる能力	地域、世代、性別など、自分とは異なる価値観に対して攻撃的、もしくは無関心である。自分の価値観を絶対に正しいと信じており、他者と共生しようという意識が薄い。自分の考えを一方向的に主張する態度が強い	自分とは異なる価値観をもつ者の立場に立とうと想像力を働かせているが、自分の価値観の妥当性は疑っていない	自分とは異なる価値観をもつ者の立場に立とうと想像力を働かせ、自分の価値観の妥当性を自分なりに検証している	自分とは異なる価値観をもつ者の立場に立とうと想像力を働かせている。さらに、自分の価値観の妥当性を、信頼性のある論拠にもとづき検証し、必要に応じて、自分の考えや行動を見直している	自分とは異なる価値観をもつ者の立場に立とうと想像力を働かせているだけでなく、自分の価値観の妥当性を、信頼性のある論拠にもとづき検証し、必要に応じて、自分の考えや行動を見直している。自分とは異なる価値観を受け入れるために、積極的に行動している。また、そのような社会を築くために行動している
E.未来の課題に取り組む能力※2	「高校卒業後に学びたいことや取り組みたいこと」が漠然とした抱負や志望動機に留まり、具体的な行動に関する記述がない。それまでの記述内容とのつながりがない。「高校卒業後に学びたいことや取り組みたいこと」が書かれていない	「高校卒業後に学びたいことや取り組みたいこと」の記述のなかで、自分の将来像をある程度、考えている。こうなりたいという記述に加え、それを行動に結びつけるような記述があるが、具体性が薄い。それまでの記述内容とのつながりが薄い	「高校卒業後に学びたいことや取り組みたいこと」の記述のなかで、自分の将来像を考えている。何のために大学に行くのか、何を学びたいのかを自分なりに考えて、具体的に何をしたいのかを明確にできている。それまでの記述内容とつながっている	「高校卒業後に学びたいことや取り組みたいこと」の記述のなかで、自分の将来像を考えている。現在の社会が抱える「未来の問題」を踏まえて、何のために大学に行くのか、何を学びたいのかを自分なりに考えて、具体的な何をしたいのかを明確にできている。それまでの記述内容とつながっている	「高校卒業後に学びたいことや取り組みたいこと」の記述のなかで、自分の将来像を考えている。現在の社会が抱える「未来の問題」を踏まえた「未来像」を描いたうえで、何のために大学に行くのか、何を学びたいのかを自分なりに考えて、具体的に何をしたいのかを明確にできている。本文とつながっている
F.新しい社会を生きる能力※2				「高校卒業後に学びたいことや取り組みたいこと」の記述のなかで、自分の将来像を考えている。Society 5.0を踏まえて、何のために大学に行くのか、何を学びたいのかを自分なりに考えて、具体的に何をしたいのかを明確にできている。本文とつながっている	「高校卒業後に学びたいことや取り組みたいこと」の記述のなかで、自分の将来像を考えている。Society 5.0を踏まえて、何のために大学に行くのか、何を学びたいのかを自分なりに考えて、具体的に何をしたいのかを明確にできている。異分野をつなげる力と新たな物事にチャレンジするマインドへの強い意識がある。本文とつながっている

※1「指定事項」とはレポートで記述すべきことが求められている内容を指します。

「高校での学び」のレポートでは、①直面・発見した問題とその問題の原因や重要性、②その問題を解決するための取り組み、③取り組みを通じた成長、④高校卒業後に学びたいことや取り組みたいことを指します。

「大学での学び」のレポートでは、①要約、②受講して気づいた課題（問題）とその理由、③その課題を解決するのに適した方策とその根拠、④高校卒業後に学びたいことや取り組みたいことを指します。

詳しい課題内容はウェブサイト（https://kugspro.adm.kanazawa-u.ac.jp/?page_id=1684）もしくはポータルサイト「マイページ」をご確認ください。

※2 E、Fの項目については、「今度、どう行動したいと思っているか」の記述内容が、Eに近いかFに近いかで評価します

金沢大学KUGSグローバルスタンダードはこちら（<https://www.kanazawa-u.ac.jp/students/class/distinctive/global/kugskaisetsu/>）